題材 「へったのはいくつ」 4時間中の第2時

(1) 学習のねらい

「ふえたのはいくつ」を考える場面で、なに算になるかテープ図をもとに考える子ども達が、求める数を？としてテープ図に描いて考えることを通して、たし算でもひき算でも求められることに気づき、友達に説明することができる。

(2) 本時の学習材

Aさんの「たし算でもできるよ」という発言

- 子どもたちは、テープ図からなに算になるか自分なりに考えたことやわからなさを伝えていくだろう。その意識を捉えたところで学習材を提示する。
- 本学習材は、「たし算でもできるよ」というAさんの考えである。この考えに出合った子供たちは、たし算でもできるかどうか考えるだろう。そして、たし算、ひき算両方の考え方があることに気づく期待ができる。

(3) 学習の展開

過程	学習活動	予想される子どもの動き	時間	指導と評価
課題把握	1 学習問題について、自分の考えを持つ。	<p style="text-align: center;">学習問題</p> <p>はじめにケーキが20こありました。子どもたちにくばりました。のこりは5こになりました。何個くばりましたか</p>	5'	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「この問題のテープ図ってこんな感じ？」 ○ 求める数を？として、テープ図に書き込む。 ・ $20-5=?$ ($5+?=20$) ○ はじめに全体を示す部分からテープ図に言葉を書き込めるように促す。
	展開	<p style="text-align: center;">学習課題</p> <p>求める数を？として、テープ図に書きこんでどんな式になるのか考えよう</p>		<p style="text-align: center;">学習材</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">Aさんの「たし算でもできるよ」という発言</p>
終末	2 テープ図を描きながら考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ さっきの問題と同じテープ図になるかな。それとも違うテープ図かな。 	25'	<ul style="list-style-type: none"> ・ ひき算だけでなく、たし算で考えたひとはいるかな。 ・ たしひき両方紹介する。 ・ わからない子には個別に行き、共に考える。
	問題2 :はじめに子どもが24人あそんでいました。そこへ友だちが来ました。みんなで35人になりました。何人きましたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ?の場所が変わると式も変わりそう。 ・ $35-24=?$ (ひき算) ・ $24+?=35$ (たし算) ○ この問題で求める数はなんだろう。 ・ たし算でも考えられるよ。 ・ たしかめ算といっしょだ。 		
	3 ペアで説明しよう。	○ ノート交換し、指で示しながら説明する。	5'	<p style="text-align: center;">評価</p> <p>テープ図を描いて考えることを通して、友達に説明することができる。</p> <p style="text-align: center;">(つぶやき、記録など)</p>
4 全体で共有 iPad&電子黒板	<ul style="list-style-type: none"> ・ テープ図がうまく描けない。 ・ 友達の考え方が少しわかった。 	5'		
5 本時を振り返り、次時への見通しをもつ。	○ 次回も？を使って考えて少しずつ慣れていこう。	5'	○ たし算、ひき算それぞれの考え方があることを確認。	